

国立大学法人筑波技術大学の平成19年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

筑波技術大学は、聴覚・視覚に障害のある者を対象に教育を行う大学であり、学生の障害特性に配慮した教育を通じて、幅広い教養と専門・応用的能力を持つ専門職業人の養成、社会的自立を果たしリーダーとして社会貢献できる人材の育成、国内外の障害者教育の発展に資することを目標として掲げ、聴覚・視覚障害を補償する教育方法・システム等の開発、情報授受のバリアのない教育環境の構築、他大学等に対する支援等の実施に努めている。

特に、平成19年度は、情報システムへの不正アクセス等に対応するセキュリティ対策や個人情報保護の一層の効果的・円滑化を図るため、「筑波技術大学情報システム運用基本方針」を作成している。

一方、自己点検・評価のうち組織及び運営の状況に関する事項については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として扱われていることから、適切な審議を行うことが求められる。また、監事による監査結果（監事意見書）の指摘事項を運営に反映していないことから、早急な対応が求められる。

この他、業務運営については、教員の流動性向上を図るため、任期付きの年俸制教員の採用を拡大している。

財務内容については、光熱水量の節減、会議資料のペーパーレス化、定期刊行物等の経費見直し、光熱水量のセグメントごとの使用量・費用実績のコスト分析等により、管理的経費の抑制に努めている。

教育研究の質の向上については、障害者教育と支援を推進するため、「全国障害学生支援コーディネータ会議及び研修会」を開催し、障害学生を受け入れている大学間の協力体制の構築に寄与するとともに、障害学生支援を担うコーディネータの質向上に貢献している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化

- ① 運営体制の改善
- ② 教育研究組織の見直し
- ③ 人事の適正化
- ④ 事務等の効率化・合理化

平成19年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 大学の教育研究、管理運営に関し、助言・提言を得るアドバイザー制度を創設し、2名の学外アドバイザーを委嘱している。
- 広報活動の企画・立案を積極的に推進するため、広報室を設置している。
- 教員の流動性向上を図るため、任期付きの年俸制教員の採用を拡大し、特任教授（1名）、特任助教（4名）、特任助手（3名）及び特任研究員（2名）となっている。
- 学長裁量教員枠として、新たに教員枠（2名）を確保し、より柔軟な対応ができる

ように配慮している。

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 自己点検・評価のうち組織及び運営の状況に関する事項については、経営協議会において審議すべき事項であるが、報告事項として扱われていることから、適切な審議を行うことが求められる。
- 監事による監査結果（監事意見書）の指摘事項（空室となっている職員宿舍の有効利用）を運営に反映していないことから、早急な対応が求められる。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載 19 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、経営協議会の適切な審議が求められること、監事による監査結果（監事意見書）の意見が運営に反映されていないこと等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善

- ① 外部研究資金その他の自己収入の増加
- ② 経費の抑制
- ③ 資産の運用管理の改善

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- つくば市との連携事業として、各種イベントのユニバーサルデザイン化推進事業、ユニバーサルデザイン研修、市内ベーカリーとの共同による創作パン作りを行っている。
- 光熱水量の節減、会議資料のペーパーレス化、定期刊行物等の経費見直し、光熱水量のセグメントごとの使用量・費用実績のコスト分析等により、管理的経費の抑制に努めている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び情報提供

- ① 評価の充実
- ② 情報公開等の推進

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 教員の教育研究活動等を記載した教員紹介版のウェブサイトへの掲載、大学紹介ビデオ (DVD)、聴覚・視覚障害者の情報保障手段である手話、指文字をデザイン化したオリジナルマウスパッドの作成・配布等により、大学情報の積極的な公開・提供及び広報活動を行っている。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要事項

- ① 施設設備の整備・活用等
- ② 安全管理

平成 19 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

- 「筑波技術大学情報システム運用基本方針」を作成し、情報システムへの不正アクセス等に対応するセキュリティ対策や個人情報保護について、より円滑・効果的なものとしている。
- 省エネルギーを励行するため、電気の使用量実績をウェブサイトへ掲載するなど、職員各自の省エネルギー意識の向上を図っている。
- 研究費の不正使用防止については、「筑波技術大学における公的研究費等の運営・管理に関する規則」の策定、契約担当者以外の第三者による検収体制の整備等を行っている。

【評定】 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

評価委員会が平成 19 年度の外形的・客観的進捗状況について確認した結果、下記の事項が注目される。

- 英語、数学、物理学の授業科目については、チュータを配置し、基礎学力が不足している学生に対して、補習授業、個別指導を行っている。
- シラバスに、成績評価基準・評価方法、学習到達目標を明記し、透明性、統一性のある成績評価の実施に努めている。

- 成績優秀者授業料免除制度を導入し、1年次生については入学試験成績結果を基に17名、2年次生については1年次の成績結果を基に17名に対する経済的支援を行っている。
- 障害者教育と支援を推進するため、「全国障害学生支援コーディネータ会議及び研修会」を開催し、障害学生を受け入れている大学間の協力体制の構築に寄与するとともに、障害学生支援を担うコーディネータの質向上に貢献している。
- 中国、韓国等のアジア姉妹協定校等の参加者を招き「アジアにおける視覚・聴覚障害者の高等教育と就労」についてのシンポジウムを開催している。
- 聾学校、盲学校等教員、障害福祉・医療関係者に対応する各種講習会・講座の開催、他大学で学ぶ障害学生、担当教員、保護者等からの各種相談等様々な取組を積極的に行っている。